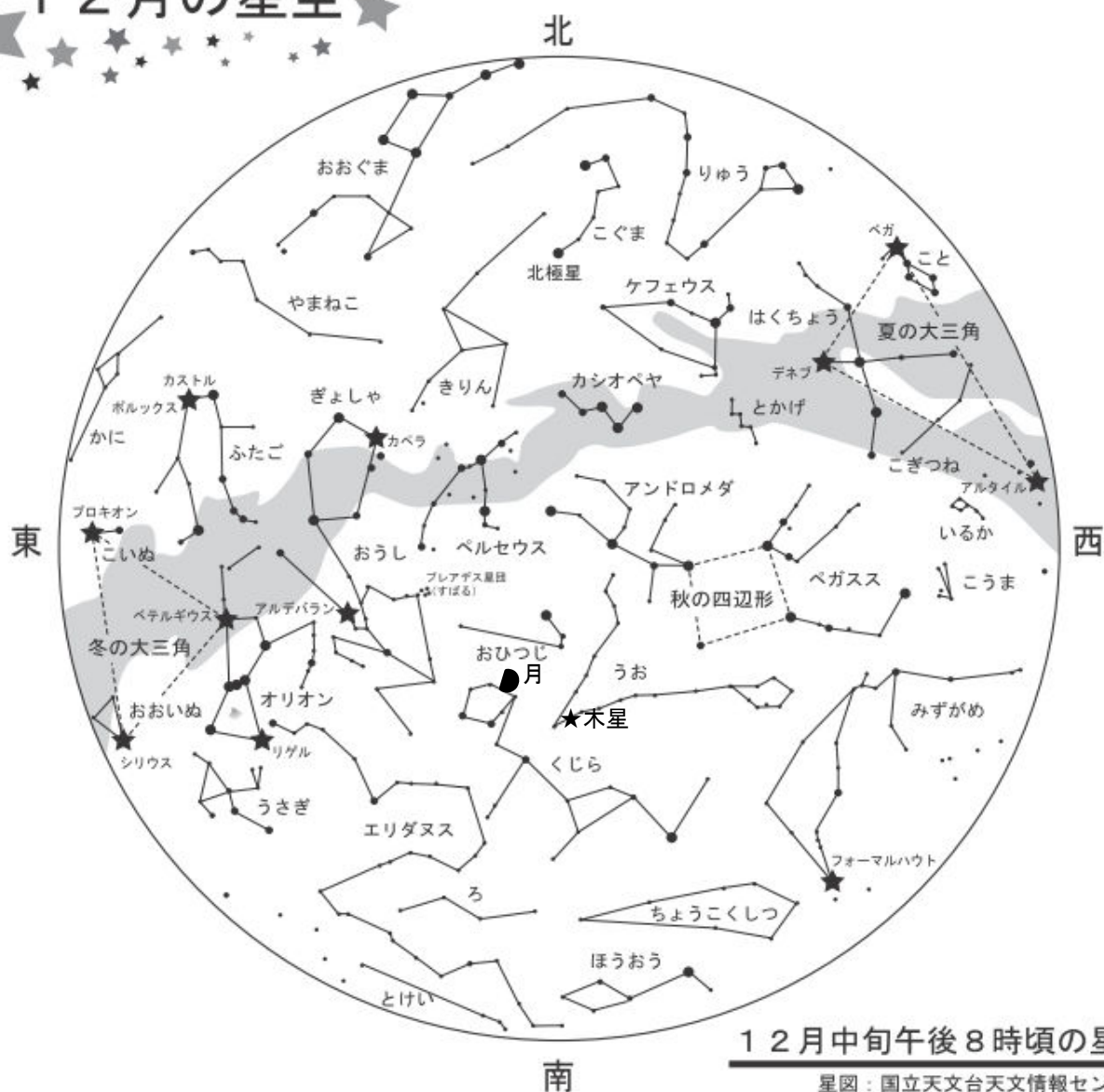


松江市立天文台～12月の天文教室

2011年12月7日

★ 12月の星空 ★



12月中旬午後8時頃の星空

星図：国立天文台天文情報センター

実際の空を見ながら星を探すときは見る方角を下にして見ます。

季節は秋から冬へ、徐々に早くなる日の入り直後の西の空には、金星の輝きが見えるようになりました。

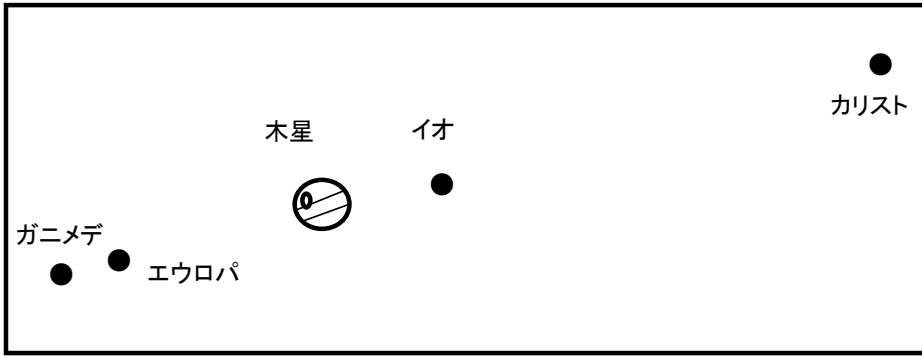
暗くなると、ペガサス座、アンドロメダ座、ペルセウス座、カシオペヤ座などの秋の星座をバックに、木星が南の空高くオレンジ色の輝きを放っています。

そして、冬の華やかな星達が、夜の深まりとともに、その姿を徐々に現してきます。

これからの季節、山陰の天候は決して良くありませんが、晴れた日はこんな星達を眺めてみてはいかがでしょうか。

今夜の観望リスト

今夜ご覧いただいた天体をご紹介します。(天候の状況等で観望対象は変更する場合があります。)



木星と4つのガリレオ衛星(※望遠鏡の視野です。)

木星

木星は太陽系最大の惑星で、その質量は地球の300倍もあります。

表面には小型の望遠鏡でも、しま模様や大赤斑と呼ばれる茶褐色の模様を見ることができます。

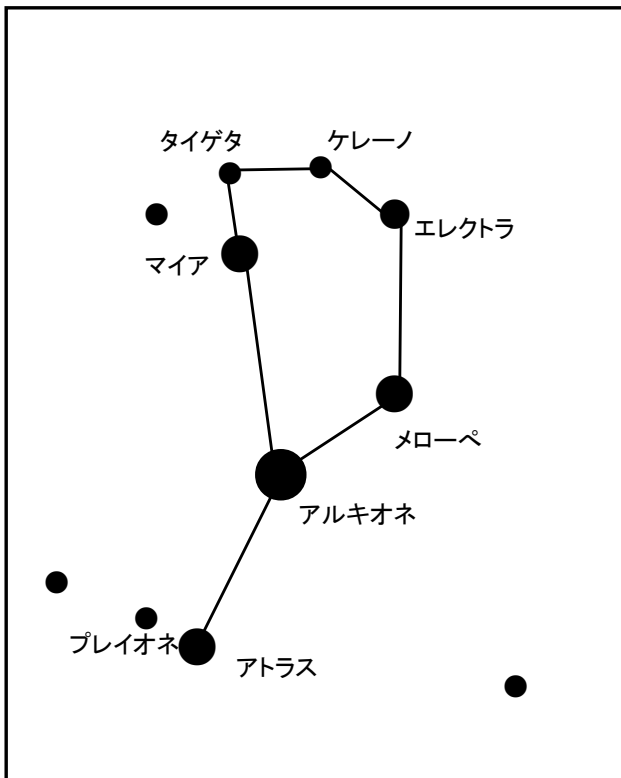
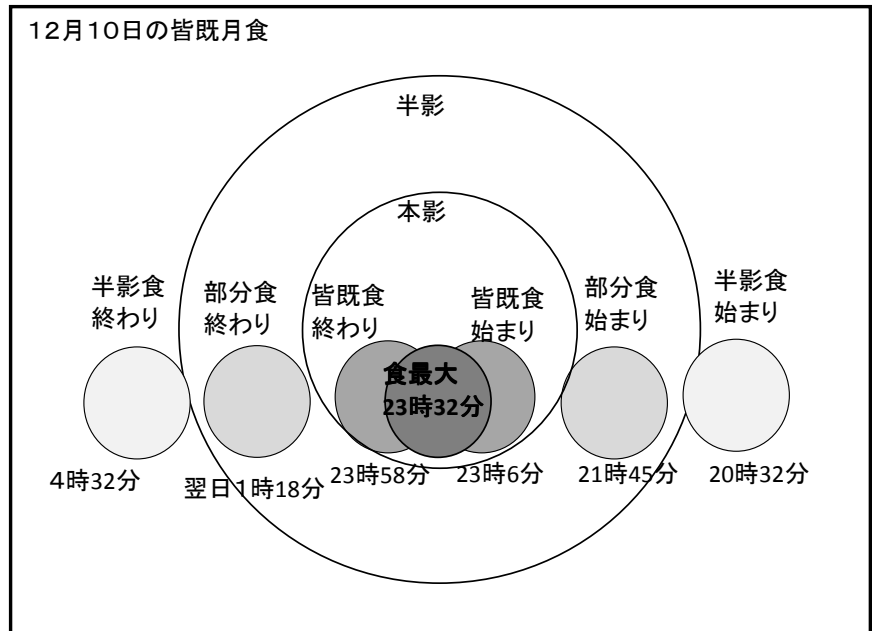
12月10日は皆既月食

月は地球から平均距離約38万キロの距離にあり、約1ヶ月で地球の周りを回っています。

普段見慣れた月ですが、12月10日に皆既月食が見られます。今回は21時45分から欠け始め、皆既は23時05分～58分までの約53分間です。23時58分には皆既が終わり、月が地球の影から少しずつ外れていって、1時間20分後の1時18分には満月に戻ります。

赤銅色の月が天空に浮かぶ光景は、宇宙の雄大さ感じさせてくれます。

12月10日の皆既月食



M45プレアデス星団

「星はすばる、ひこぼし、明星(あかぼし)、たづつ…」
(清少納言 枕草子より)

プレアデス星団(和名:すばる)は、おうし座の一部ですが、世界各国、洋の東西を問わず、昔から人々の目を集め、日本でも千年も前に、清少納言が「星はすばるが一番美しい」と書いています。

また、ギリシャ神話では、七姉妹の星とされていますが、地球から4百十光年の距離にあるこの星達は、同じガス星雲から生まれた文字通り姉妹たちです。

肉眼でも、星が小さく集まっているのが見え、双眼鏡や小型望遠鏡で眺めると数十個の星が視野を飾ります。

月の無い夜に、キラキラ輝く美しい姿を探してみたいでしょう。